第 39 回講演会＜2016 年 5 月 24 日開催＞

気候変動にも負けない地域づくりを目指して

伊能まゆ

■講演者……伊能まゆ
（特定非営利活動法人 Seed to Table 代表）
■司会……岩井美佐紀
（本学アジア言語学科教授）

本稿は、2016 年 5 月 24 日に神田外語大学にて発表させて頂いた内容をまとめたものです。以下にベトナムの概要と農業や農村の課題、そして、2016 年に発生した 100 年に一度といわれる深刻な塩害と干ばつの状況について紹介し、それらの課題に対し Seed to Table（以下、STT と略す）が取り組んでいる活動について記述します。

1. ベトナムの概要

ベトナムは人口が約 9,000 万人、国土面積が 329,000 平方キロメートルあります。国土が南北に細長いため、地域ごとに気候が異なり、豊かな生態系と生物多様性があります。また、54 の民族グループが暮らす多民族国家であり、文化的にも非常に多様性に富んでいます。歴史を振り返ると、中国の各王朝、フランス、アメリカなどと長期にわたる戦争を戦い、20 世紀に入って独立を果たし、社会主義国家を建設しました。ここでは主に現代の経済政策の変化と農村に住む人々の暮らしや農業への影響、そして、近年、顕著に見られるようになった気候変動の影響について記述します。

伊能まゆ氏

目覚ましい経済発展と新たに生じた経済格差

ベトナムは長い戦争を経て、社会主義国家を建設する際、計画経済を導入しました。計画経済とは国家が経済計画を立て、それに沿って人々が平等に働き、給与をもらうシステムであり、個々人の自由な裁量によって生産・販売を行うことができません。そのため、人々の労働意欲がそがれ、生産性が低下し、1980 年代に入って深刻な経済停滞を招きました。この状況を改善するために 1986 年にドイモイ（刷新）政策が施行され、市場経済が導入されました。

ドイモイ政策の後、目覚しい経済発展を遂げたベトナムは 2007 年に WTO（世界貿易機関）への加盟を果たし、TPP（環太平洋パートナーシップ協定）へもいち早く参加することを決めるなど、積極的に世界市場への参入を進めています。こうした動きに伴い、海外からの直接投資額（FDI）や輸出入も増え、一人当たりの GDP は 1998 年の 359 ドルから 2014 年に 2,073 ドルへと増えています。

こうした急激な経済成長の一方で、ベトナムの人々は経済的な格差の広がりに直面する

ようになりました。特に山岳地域に住む少数民族や人口の約 6 割を占める農家の暮らしを改善するため、ベトナム政府は貧困削減政策に取り組み、海外からの支援も積極的に受け入れました。その結果、ベトナムの貧困率は 1998 年の 37%から 2014 年には 5.8%まで下がりました。実際に農村を歩くと、インフラが整備され、物質的にも豊かになったと感じますが、実際の農家の暮らしはどのように変化したのでしょうか。

農村における課題と気候変動が与える影響

ベトナムは世界有数の農産物輸出国です。人口の約 7 割が農村に住み、6 割が農業を営んでいますが、農家の多くは小規模経営です。小規模農家は家族経営が多く、稲作や野菜栽培、家畜の肥育などを組み合わせて生産しているため、個々の生産量は少ないです。また、農家間の協力があまり進んでおらず、個々人が中間商人に直接、農産物を販売しており、農産物の価格は低く抑えられています。経済成長に伴い化成肥料や農薬等の値段も上昇しているため、経営的に苦しい世帯が多いです。また、農地を持たない貧困層は日雇い労働に出て生計を立てていますが、収入が安定せず、生活は困難を極めています。さらに、農薬等の過剰利用によって、地域の自然資源が汚染され、利用できなくなってきています。

この他、ベトナム南部に位置するメコンデルタやカンボジア国境近くの中部高原では、2016 年に入り、100 年に一度といわれるほど深刻な塩害と干ばつに見舞われました。その原因の一つは、地球温暖化による海水面の上昇と気候の変化です。また、他の要因として、メコン川流域で行われているダム開発により、メコン川の水がせき止められ、下流に位置するベトナム・メコンデルタに流れる水量が減少しているとされる問題が挙げられます。

この塩害や干ばつにより、ベトナムの農業を支えているメコンデルタは大きな被害を受けました。例えば、STT の事業対象地域であるベンチェ省は省内全ての村（164 村）が生活用水不足に陥り、35 万人もの人々が影響を受けました。農業への被害も深刻で、19,800ha の水田が全滅、5,756ha の果樹、475ha の魚やエビ、貝などの養殖地が被害を受けました。地方行政機関であるベンチェ省はこの被害を受け、特に生活用水の確保に重点を置き、農村部に貯水タンクを支援している他、これまで塩害の被害を受けなかった都市部の人々にも貯水タンクを設置するよう呼びかけています。

こうした農村での状況を踏まえ、次項では STT が実際にどのような活動を行っているのかをご紹介します。

2. ベトナムの農村における Seed to Table の取り組み

ベンチェ省での活動

ベンチェ省はホーチミン市より約 80km 離れたところに位置し、周囲をメコン川の支流に囲まれています。ベトナム戦争中に枯葉剤が大量に散布され、現在も多くの人々が枯葉剤の影響による障害に苦しんでいます。15 年ほど前より海沿いの地域ではエビの養殖が盛んになり、淡水地域では価値の高い果樹栽培が行われるようになりましたが、農地経営に失敗して土地を手放し、「土地なし層」になる人が増えています。

司会の岩井先生

こうした状況を鑑み、ビンダイ郡にて2010 年より土地を持たない貧困世帯などを対象とした生計改善のための活動を実施してきました。まず、対象村に行政村と行政村を構成する集落の代表から成る「村づくり委員会」を設立し、彼らと共に計画を立て、活動を実施しています。貧困世帯に対し、自宅周辺の小さな土地と在来の資源を活用しながらアヒルや鶏を育て、家庭菜園を営むための持続的農業技術研修を実施している他、アヒル・鶏銀行を設立し、貧困世帯が資金を借りられるようにしたり、支出入の管理を行う帳簿を支援し、帳簿の付け方について研修を行っています。

アヒルや鶏の肥育を上手に行い、現金収入が増加した貧困世帯には、貧困から完全に脱却できるようアヒルや鶏の肥育規模を大きくする支援や、牛銀行や地豚銀行を設立してメスの牛や豚を貸し出しています。これまでに延べ 1,000 世帯以上が活動に参加し、約 9 割の世帯が現金収入を得られるようになり、各村の貧困率の軽減に寄与してきました。この他、乾季の水不足を軽減するために雨水を貯めるための簡易貯水タンクを延べ 277 世帯に支援しました。この支援により、乾季の真水購入費が軽減された他、貧困世帯によっては継続的に小規模のアヒル肥育に取り組むことができるようになりました。

この他、貧困層が魚、カニ、エビ、水草などを得たり、洗濯や水浴びなどに活用してきた水路や池などが農薬等によって汚染され、魚などが激減している他、水浴びをすると肌が痒くなるなどの健康被害が出ています。一方、都市部でも食の安全を揺るがす事件が連日のように報道されており、消費者は安全な食品を求めるようになりました。こうした状況から、農薬などを利用しない有機農業を推進し、地域の自然環境や人々の健康を守ると同時に、有機農産物を販売することで小規模農家の生計改善に繋げていくための事業をビンダイ郡およびバーチー郡にて実施してきました。

牛銀行から借りた世帯が無事に子牛を返し、次の貧困世帯へ引き渡しているところ

有機農業は、環境や健康に良いだけではなく、気候変動を引き起こしている地球温暖化の軽減に貢献する方法だと考えられています。その理由は、在来の資源を活用して堆肥を作るため、エネルギーの消費を抑えること、農業生態系の多様性の強化や農業生産の多様性を通じて、農家の気候の変化に対する適応力を高めていくことができる点などです。多くの小規模農家が有機農業に取り組むことで、地域の環境や人々の健康を守り、現金収入を得るだけではなく、気候変動への適応にも役立ち、リスクを回避しながら、持続的な農業生産を行うことが期待できます。

実施している有機農業事業では、参加型保証制度 (Participatory Guarantee System, PGS) を実践し、参加している小規模農家や行政機関の職員、流通業者などと共に相互チェックを行うことで品質を確認・維持し、有機認証を出しています。参加する小規模農家は有機農業に関する一連の研修を受けた後、野菜を栽培しながら日常的に相互チェックを行い、有機農業技術をしっかりと実践しているかどうか、野菜の品質はどうかを互いに確認しています。また、生産者と PGS の情報を記した袋やタグをつけて出荷するため、消費者が疑問を感じた場合、すぐに問い合わせをすることができます。この制度は小規模農家の農産物に対する責任感を高め、消費者に正しい情

報を伝えていることから、消費者の支持を得、現在、供給が追い付かない状態です。

また、ベンチェ省の小中学校や孤児院と連携し、子供たちが有機菜園を訪問し、昆虫や土の状態を観察することで、生態系や環境について考える機会を設けたり、学校菜園と環境教育のプログラムを構築している他、給食で有機野菜を取り入れる準備を行っています。こうした活動を通じて、地域の人々の環境や生態系に対する理解を深め、環境に配慮した地域づくりを推進しています。

ホアビン省タンラック郡での活動

ホアビン省タンラック郡はベトナムの首都ハノイより約 125km 離れた山岳地域にあり、ムオン民族の故郷として知られています。彼らは伝統的に水稲を植え、家畜を飼い、森を上手に活かしながら、暮らしてきました。近年、換金作物となるトウモロコシやサトウキビの栽培が広がり、多くの在来種が消え、川や土壌が汚染され、農薬等の使用によって体調を崩す人が出るようになりました。そのため、各村の行政機関や青年団、農家グループなどが危機感を抱き、STT と共に現状を改善するための活動について話し合い、実施してきました。

一つ目の活動は在来の稲の復元と記録です。在来種は気候変動や病害虫に耐えられるものが多く、人々の暮らしを支える大事なものです。在来の稲を守りたいと考えている村人のグループと在来の稲の品種を調査し、村人が復元したいと思う品種を選び、劣化しているタネから良いタネを選抜し、次世代へ残していくための活動を実施しました。これまでに 5 種類の在来の稲の復元を終え、多くの世帯が在来の稲を植え続けています。

有機野菜園を訪問し、農業普及所の職員から昆虫について話を聞く小学生

また、有機農業と参加型保証制度（PGS）を紹介し、地豚、地鶏、ザボンなどの生産者グループが育ち、市場価格より 15 ～ 20%高く農産物が販売されています。さらに、青年達と村の自然を調べ、記録し、それらを活かした観光コースづくりや、地元で取れる食材を用いた伝統的な料理コースを開発するなど、住民主体のエコツーリズムを実施する準備を進めています。

3. 今後に向けて

ベトナムでは近年の目覚ましい経済発展を経て、多くの人が豊かさを享受できるようになった一方で、環境問題や食の安全、農村の発展などの課題が生じ、ターニングポイントを迎えています。人口の約 6 割を占める農家は、大部分が小規模経営であり、彼らの生活改善が喫緊の課題となっています。

STT は地域の人々と連携し、共に地域の資源を調べ、持続的で有効な活用方法を話し合い、実践してきました。こうした地味で手間のかかる小さな取り組みを重ねていくことで、気候変動にも適応でき、持続的な地域の発展を達成できると考えています。STT とベンチェ省やホアビン省の皆さんが取り組む活動が、地域づくりの良い事例としてベトナム国内外に示すことができるよう、引き続き、共に考え実践していきたいと思います。